

社団法人 日本 C A T V 技術協会

社団法人 日本ケーブルテレビ連盟

## 「第 16 回ケーブルテレビ功労者表彰」の発表について

ケーブルテレビ関係二団体（社団法人 日本 C A T V 技術協会、社団法人 日本ケーブルテレビ連盟）では、ケーブルテレビの普及・発展に努め、その功績が顕著な方（個人または団体）に対し、毎年功労者表彰を行っています。

本年は第 16 回に当たりますが、5 月 28 日に選考委員会（委員長：小暮純也 総務省 情報通信政策局 地域放送課長）が開催され、添付資料のとおり個人 5 名と団体 1 団体を表彰することが決定しました。

なお、贈呈式は下記により執り行われます。

### 記

#### 第 16 回ケーブルテレビ功労者表彰 贈呈式の概要

○日 時 : 平成 16 年 6 月 23 日（水）16：30～17：30

○場 所 : 東京ビッグサイト 会議棟 607・608 会議室

#### < 担当 >

（社）日本 C A T V 技術協会 小林 TEL 03-5273-4671

（社）日本ケーブルテレビ連盟 水島 TEL 03-3490-2022

< (社)日本CATV技術協会関係 > (個人2名)

受賞者	<p>かね こ はる お 金子 春 生 (68 歳)</p> <p>元 NEC ケーブルメディア(株) 社長</p> <p>元 (社)日本 CATV 技術協会 運営協議会委員</p>
功績の概要	<p>平成 4 年 5 月から平成 12 年 5 月迄の 8 年間、本部の運営協議会、理事会に出席し、協会の運営・発展・強化に尽力した。</p> <p>また、昭和 59 年に日本電気(株)のケーブルテレビ部門を立ち上げ、平成 4 年から平成 11 年迄の 7 年間、社長としてケーブルテレビ関連の機器・システムの開発・製造を推進し、我が国のケーブルテレビ技術の向上に寄与した。</p> <p>豊かな知識と経験を基に、国のケーブルテレビ関係の審議会や検討会に参画し、業界の発展に寄与した。</p>
受賞者	<p>せりざわ ひろゆき 芹 澤 皓 元 (62 歳)</p> <p>元 松下電器産業(株) システムソリューション事業本部 ケーブルネットワークセンター 所長</p> <p>元 (社)日本 CATV 技術協会副理事長</p> <p>元 日本ケーブルラボ運営委員、現 同 顧問</p>
功績の概要	<p>平成 11 年 7 月から平成 15 年 11 月迄、副理事長として協会の運営・発展・強化に尽力した。特に、技術調査研究委員長として、CATV 技術の進歩及び会員の技術向上に尽力した。</p> <p>また、平成 12 年 6 月から平成 15 年 11 月迄、日本ケーブルラボの運営委員として、その立ち上げと定着、並びにケーブルテレビの放送デジタル化対応に尽力した。</p> <p>松下電器産業(株)のケーブルテレビの機器・システムの開発・製造責任者として、BS、CS、地上の放送デジタル化に対応したヘッドエンド、STB 等、関連機器・システムの開発・製造を推進し、業界の発展に大きく貢献した。</p> <p>また、国のケーブルテレビ関連の検討会に参画し施策立案に寄与した。</p>

< (社)日本ケーブルテレビ連盟関係 > (個人3名)

<p>受賞者</p>	<p>はら たかし 原 隆 司 (58歳)</p> <p>現 (株)ケーブルワン 代表取締役 (本社所在地:佐賀県武雄市)</p> <p>元 (社)日本ケーブルテレビ連盟 理事、常任理事、九州支部長</p>
<p>功績の概要</p>	<p>コミュニティチャンネルの充実に力を注ぎ、番組コンクールの受賞歴は11回に及び、その内2回は郵政大臣賞(グランプリ)を獲得している。</p> <p>エリアホームパス 99%、設置端子接続率 74%であり、3年で黒字を達成し、現在配当も行っている。</p> <p>デジタル化、インターネット事業化、広域化にも意欲的に取り組んでおり、こうした取り組みを通じ、九州地区での業界振興の模範となった。</p> <p>また、連盟役員(理事10年、常任理事6年)や委員会の委員長(著作権委員会、事業委員会)として意欲的に活動し、連盟の施策立案に大きく寄与した。</p>
<p>受賞者</p>	<p>みなみや みつ お 南 谷 光 男 (74歳)</p> <p>現 (株)八戸テレビ放送 代表取締役社長 (本社所在地:青森県八戸市)</p> <p>元 (社)日本ケーブルテレビ連盟 理事、常任理事、東北支部長</p>
<p>功績の概要</p>	<p>地域に密着した市民に愛されるケーブルテレビ局を目指し、コミュニティチャンネルで地域の問題を発掘するとともに、市民参加のイベント(アイスホッケーなど)、伝統催事(八戸三社祭)等の中継するなど、他のケーブルテレビ事業者の模範となった。</p> <p>また、黒字化も達成し、東北地方の新規開局の模範となった。</p> <p>連盟理事、常任理事、事業委員会副委員長を歴任し、支部長としても活躍した。連盟委員としては、デジタル化対応や日本ケーブルラボ、ケーブルCAS協議会設立に当たって支部の意見集約に貢献した。</p>

受賞者	みずのしげみつ 水野重満（63歳） 現 ㈱NHK ソフトウェア 「ケーブル新時代」編集委員 元 同社 「CATV now」編集長
功績の概要	<p>平成8年から6年半、ケーブルテレビ業界専門誌として定評のある「CATV now」の編集長を務めた。その間各局の実情を丹念に現地取材して紹介するとともに、ケーブルテレビ実務者の要望を踏まえ、タイムリーな話題の解説や特集を組み、業界内外のケーブルテレビへの理解促進に尽力した。</p> <p>平成15年同社退社後も同誌の編集委員として、また平成16年4月改題した「ケーブル新時代」においても引き続き編集委員として事業者には有益な情報提供に精励している。</p> <p>また、豊富な知識と経験を基に、ケーブルテレビ関係のセミナー講師を務めるとともに、事業者の相談にも懇切に応じ、業界の発展に寄与した。</p>

<(社)日本ケーブルテレビ連盟・(社)日本CATV技術協会関係> (団体1団体)

受賞者	デジタルCATV実験協議会 代表：もりみちもと 森紀元
功績の概要	<p>当協議会は平成10年10月に設立され平成16年3月に解散するまでの間、我が国で唯一設置された共同利用型実験設備である豊田実験センター施設を活用するなどして、各種のケーブルテレビ施設や集合住宅などに地上デジタル放送を伝送する際の諸問題を実証実験し、国及び民間の技術基準策定に寄与するなど、数々の成果を挙げた。</p> <p>主な成果。</p> <p>都市型や電障型などの各種ケーブル施設において、OFDM信号を伝送した時に、NTSC信号や64QAM信号との相互干渉を検証し、国の技術基準策定に寄与。</p> <p>棟内ブースターにOFDM信号を伝送する時の出力歪を検証し、民間規格の策定に寄与。</p>

